

# ICCAE



名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成23年12月1日発行 通巻20号(年2回発行)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222  
<http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html>  
e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

## 「農学国際協力」誌の発刊について

同誌はほぼすべての編集作業を終え、2011年度中に印刷と発送を終える予定です。巻頭言や原著論文総説、ケースレポートなどを含め12編の論文とその他の記事で構成される予定になっています。農学分野の国際協力というこれまでになかった分野での雑誌の刊行がこれからどのように展開するか、温かく見守っていただければ幸いに存じます。最後に編集委員や査読者の方々にはご多忙の中、時間を割いてご協力いただきました。ここに厚くお礼を申し上げます。(前多敬一郎)

## 第12回オープンフォーラム

### 「途上国留学生教育の人造り・国造りへの貢献～アフガニスタンの復興に向けて～」開催

10月6日(木)、7日(金)の両日、名古屋大学野依記念学術交流館において、学内外から約60名の出席者のもと、第12回オープンフォーラムが開催されました。今回は、「途上国留学生教育の人造り・国造りへの貢献～アフガニスタンの復興に向けて～」と題し、開発途上国からの留学生に対する教育についての講演と議論が展開されるとともに、JICAのアフガニスタン「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」の開始を念頭に、復興途上にある国に対する国際協力の一環としての留学生教育の意義と課題につ

いて議論がなされました。

1日目は、上智大学の北村友人准教授(名古屋大学客員教授)および同志社大学の中西久枝教授による基調講演と7つのケースレポートの発表により、途上国の高等教育と国際協力に係る現状と課題、アフガニスタン復興開発における人材育成の役割、アフガニスタン留学生への教育の事例、アフガニスタン農業・農村開発の現状と課題などが報告されました。人的・組織的・制度的な能力開発や多様な文化的アイデンティティを反映した教育が重要であること、能力強化は双方向的なものであり、一方的に教えるのではなく留学生の主体性を重視して我が国の学生に対する効果・影響も配慮すること、人づくりは時間がかかる営みであり長期的な視野での教育が必要になること、留学生を通じて日本の顔を世界に見せることができること、受け身の留学生受け入れではなく、アフガニスタンの復興開発支援を念頭にした積極的な参画が期待されていることなどが強調されました。

2日目は、JICA人間開発部の後藤光企画役による「アフガニスタン未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」の概要説明に始まり、パネルディスカッションでは、日本の留学生教育の特色と欧米諸国の留学生教育との違い、我が国大学にとっての途上国留学生教育の意義、留学生教育の効果を高めるための方策、アフガニスタン農業・農村開発に向けた留学生教育の役割と課題などについて活発な議論が行われました。

2日間のフォーラムを通して、我が国における留学生教育がどのような形で行われ、いかに途上国の「国造り」に貢献しているかが示されるとともに、今後の効果的な取り組みに向けて、教員個人の努力に頼るだけでなく大学組織としての取組みの促進やそのためにも大学間での情報共有や連携協力を進めることの必要性が認識されました。また、アフガニスタンの人造り・国造りは一朝一夕にできるものではなく、20年あるいはそれ以上というような長い目で大学・学術・学問を支える人材を育てていくことが肝要であるとの認識が共有されました。(伊藤圭介)

